
君へ

クノウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君へ

【Nコード】

N1307A

【作者名】

クノウ

【あらすじ】

最終兵器彼女7巻の226ページに出てくる人物を想定して書いたストーリー。

- 想い -

- 君に会いたい……

一目だけでも……

せめて死ぬ前に……

一度だけでも……

君に……

俺は、この戦争をなめてたんだと思う。

ここに来る前のあの日、親友のアイツに言われたとおりだ。

ここは死にに来る場所じゃなかった。殺し合いをする場所だった……

守りたいって気持ちだけあっても何にもならない

人を殺すってことも、こういうことか分かってなかった

自分が死ぬってことも……

それに未練がないなんて言ったが、今思えば嘘だった。

君に…… みんなにも会いたくて仕方ない。

君に会ったたらなんて言おう？ 『ただいま』とでも言おうか……

でも嫌だよな？ 『君のため』なんて言って人を殺した俺になんか、

会ってくれないだろう……

アイツに会ったたらなんて言おう？ 『ありがとう』とでも言おうか……

アイツなら、こんな俺をバカとか言いながら笑って迎えてくれるだろう……

他のやつに会ったらなんて言おう？『彼女できたか？』とでもバカにしてやるうか……

あの頃みたいになんた楽しく過ごせるだろう……

両親に会ったらなんて言おう？『ゴメン』って言いたいな……
きっと怒られるだろう。でも、今なら怒られても嬉しく感じられそうだ……

- ちせの火 -

でも、二度と会うことは無いだろう。

もう、あれから何日たった？

2週間？3週間？ 日にちの感覚も薄れている

もう何日も他の人を見ていない。たまに戦闘機やヘリが上空を通るだけだ。

水と食料だけは何とか確保できている……いや、できていた。あと何日も持ちそうにない。

あの日あの“火”を見たとき、俺の意識は途絶えた。気付いたら俺は一人……

周りは一面“白”。何もなかった。

命が助かり食べ物が見つかっただけでも奇跡としか言いようがなかった。

今でもあの火が何なのかは、よく分からない。

ただ分かっているのは、あれが“ちせの火”だったというだけだ。ちせが何なのかは今でもよくは分からない。

人によつては『死神』『ちせちゃん』『冷たい女』……

“あの人”にいたっては『世界で一番辛い運命を背負った女子高生』だとか

あの人は何も聞きたくないと言っていたが、俺はかまわず話した。軍にきた訳、彼女の事、家族の事、友達の事、この戦争のこと……そのうち、いろいろ教わった。

あの人も彼女がいること。昔は夢があったこと。弟みたいな後輩がいること。

“ちせ”の秘密も。

正体までは教えてもらえなかったが、彼女もこの戦争の被害者だということとは分かった。

そして、俺たちは帰れない……返してもらえないという事……

だが、それきりあの人も会っていない。あの日みんな死んでしまったから。

- 北へ…… -

今日も俺はこの廃墟の町を歩く。行く当てなんか無い、ただ少しでも君の近くにいたい、その為に 北へと向かって歩く。

持っているのは、弾の少ない銃に少量の水、そしてヘルメットに貼った君の顔写真……

これだけが俺の生きる希望だ。生きてさえいれば君に会える……そんな気がするから会えるはずも無いのに。

会えたとしても、どんな顔をして会えばいいんだろう？ “人殺し”の俺が。

怖がるに決まってる。それだけは耐えられそうに無い。

この廃墟を歩いてわかったことがある。

いかに君が俺の心の支えなのかということ。

いつも気がつくと君の事を考えている。

今何してるんだろう？ 今何処にいるんだろう？ 怪我や病気をし
てないだろうか？

浮気なんかされて ないだろうか？

こんなことばかり考えている。

- この星の代償 -

この廃墟を見てわかったことがある。

この星はもう長くない。

あと数ヶ月持つか分からないほど、もう壊れてしまった。

ちがう、壊してしまっただ、おれたち人間が……

地球への影響なんかお構いなしに核爆弾がどんどん使われ、最新兵器が使われ、自然を破壊し、

もう回復不可能なところまで来ている。その頂点が“ちせ”だ……

なあ、この戦争はいつたい何が原因なんだ？ 誰が悪いんだ？ なんでここまで酷くなってしまったんだ？

ごく一部の国のお偉いさんのいがみ合いが引き金なのか？

だとしたら、この戦争に意味なんかあるのか？

そいつらだけで勝手にケンカすればいいだけじゃないか。

なにも、自分の変わりに多くの自分の国の人を戦わせなくてもいいじゃないか。

ここまで星を痛めつけなくても良かったじゃないか。

それとも、俺たちみんなが悪いのかな？

今まで人が死ぬことに無関心で……

関係ないって気付かない振りして……

ちよっと道を外れれば、そこは死に溢れてる

人類の歴史って多くの人の死から成り立ってたんだよな。

だれかが死ぬことで俺たちは生きてきたんだよな。

それを今頃になって気付いたよ。

遅すぎたんだ……

もっと早く気付いていれば、違う結果になってたのかな？

それとも……

- 優しさ -

今日も俺はこの廃墟を歩く。君のいるであろう、北を目指し。

この命尽きるまで。

君は元気かな？君はまだ俺のこと待ってくれてるかな？

ずっと知ってたんだ。君が本当はアイツのことを好きだったのを。

本当は俺のこと好きじゃないってことも。

でも、俺の彼女になってくれた君の優しさ……

痛いほど嬉しくて、苦しいほど……残酷だった

後悔してないかな？俺なんかの彼女になってくれたこと。

すくなくとも俺は後悔してないよ、だって君に恋してるんだから。

今日はどれくらい歩いたろう。30キロ？40キロ位かな

ここは何処だったんだろう？いくらか街の跡らしき風景が見られるようになつてきた

あの“ちせの火”の爪跡から、少しずつ抜け出しているのだろう。

相変らず人はいないが、水は確保できた。これでまだ当分は大丈夫そうだ。

だが今日はもう疲れた、休むとしよう。

明日も俺は歩くだろう。

次の日も、その次の日も……

君のいる北を目指して。

- 君へ -

「なあ…俺、もう死んでもいいかな？疲れたよ。」

『バーカ、なに言ってるんだよ！！まだ冗談いえる元気が残ってるんだべさ！』

「君に会いたいよ……」

『泣き言いつてるような奴なんか、あたしは会いたかないよ、情け無い。』

「でも、俺はもう歩くことしかやることがない。」

『やることなんか、探せばいいじゃない。生きてさえいればきっと大丈夫』

「そうか、そうだな……まだ頑張れるよな。」

『うん、あんたはまだこっちに来ちゃダメだよ。』

「ああ……」

夢を見ていた 君の夢だ

俺は今日も北を目指し歩く。君を目指して歩く。

今は一人じゃない。途中で他の生き残った人と出会った。

その人と北へ向かう

そこにつくまで俺はこの人を守る。守ってみせる。

なあ、俺は君のこと守れたのかな？

- 終わり -

（後書き）

< font size="2">これは7巻の226ページに出てくる人物を想定して書きました。

うゝん…… 根本的に書きたいことを書いただけで、まとまった文章になってない気がします。

というか完成して無い？まだまだ未完成な文章です</ font >

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1307a/>

君へ

2010年10月11日17時04分発行